

平成26年度 水資源功績者 功績概要

都道府県名: 神奈川県 氏名: 山田 登美夫 やまだ とみお

地域

功績者の山田氏が活躍されている愛川町は神奈川県中央北部に位置し、都心から50km圏内にあります。町の西部には丹沢山塊の東端にあたる仏果山（ぶっかさん）を最高峰とする山並みが連なり、東南部には相模川と中津川に挟まれた標高100m前後の台地が広がっており、自然と調和した美しい緑豊かな町が形成されています。

また、平成26年6月28日、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の相模原愛川ICから高尾山ICまでが開通し、東名高速道路、中央自動車道、関越自動車道の大動脈が結ばれ、県内各地はもとより、東京、埼玉、山梨方面から愛川町へのアクセスが飛躍的に向上しています。

経緯

昭和39年11月～平成 8年 3月 愛川町職員

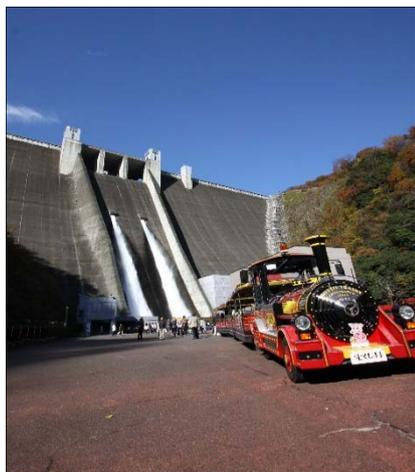
平成 8年 4月～平成13年 6月 愛川町助役

平成13年10月～平成25年10月 愛川町長

功績内容

- 人工湖では初めて自然環境の保全を図るための秩序ある利用を定めた「宮ヶ瀬湖憲章」の制定や、全国に水源地域ビジョンが広がるきっかけとなった「宮ヶ瀬湖水源地域ビジョン」の策定に寄与されました。宮ヶ瀬湖周辺地域は、今日では年間135万人が訪れる観光地へと発展しています。
- 「やまなみ五湖 水源地域交流の里づくり計画」で「交流の里」に位置づけられている愛川町半原地区において、都市地域住民との交流や自然環境保全への理解を深めるための事業を継続的に実施するほか、宮ヶ瀬ダムに隣接する県立あいかわ公園において「つつじまつり」をはじめとした各種のイベントを開催するなど、水源地域の活性化に積極的に取り組まれました。
- 愛川町郷土資料館を県立あいかわ公園内に整備し、宮ヶ瀬ダムと周辺施設が一体となった観光地づくりを進める上で多大な貢献を果たされました。

宮ヶ瀬ダム観光放流



中津川の清流



県立あいかわ公園



つつじまつり

半原系の里文化祭

